

エフェソの信徒への手紙

エフェソの信徒への手紙は、特にユダヤ人と異邦人が一つの新しい人間性へ結び合わされることにおいて、教会をキリストにあって和解した民として示します。



解釈にもとづく再構成。この場面は、手紙が示すパウロとティキコの状態を描いたものです。収監地を一つに決めたり、著者問題に結論を出したりしてはいません。

年代・確度：推定される

紀元60～62年頃

ローマ、カイサリア、エフェソのすべてが提案されており、「エフェソに」という宛先そのものも一部の初期写本では本文上不確かです。

場所・確度：推定される

伝統的にはローマ（著者と背景に議論あり）

ローマ、カイサリア、エフェソのすべてが提案されており、「エフェソに」という宛先そのものも一部の初期写本では本文上不確かです。

前後の出来事

- ① 紀元59/60年頃 嵐と難船。276人全員が助かり、パウロは蛇にかまれるが無事で、マルタ島で癒やしを行う。
マルタ・本文で確かめられる
- ② 紀元60年頃 マルタ島からイタリアへ渡り、さらにアッピア街道でローマへ。兄弟たちがパウロを迎える。
マルタ→シラクサ→レギオン→プテオリ→アピイフォルム→トレス・タベルネ→ローマ・本文で確かめられる
- ③ 紀元60～62年頃 使徒言行録は、パウロがローマで自宅軟禁下に置かれたまま、妨げられることなく宣教する場面で終わる。この時期に獄中書簡を置く伝統的な見方は再構成であり、使徒言行録自身の主張ではない。
ローマ・本文で確かめられる
- ④ 紀元60～62年頃 フィレモンへの手紙は、書き手がオネシモをフィレモンのもとへ送り返そうとしていると述べる。コロサイの信徒への手紙との共通する人名は両書の関連を示唆するが、同じ発送、完了した旅程、監禁都市を確定しない。
・推定される
- ⑤ 紀元60～62年頃 エフェソの信徒への手紙は、キリストとの結びつきと、ユダヤ人と異邦人の一致を示す。パウロによる直接の著作、宛先、監禁場所はいずれも議論されている。
・推定される
- ⑥ 紀元60～62年頃 フィリビの信徒への手紙は、投獄が福音の前進につながったことを描き、キリストをたたえる賛歌を含む。監禁都市は議論されている。
・推定される

本文から確かめられること

本文で確かめられる

エフェソの信徒への手紙は、特にユダヤ人と異邦人が一つの新しい人間性へ結び合わされることにおいて、教会をキリストにあって和解した民として示します。

想定される読者は主として異邦人信徒で、キリストにあってイスラエルの民と分かち合う新しい共同の生を理解するように教えられています。

10分で紹介するための流れ

1. エフェソの信徒への手紙は、特にユダヤ人と異邦人が一つの新しい人間性へ結び合わされることにおいて、教会をキリストにあって和解した民として示します。
2. 伝統的な位置づけはローマ到着の後であり、拘禁書簡群のコロサイの信徒への手紙、フィレモンへの手紙、フィリビの信徒への手紙の近くに置かれます。
3. ここに示す伝統的再構成は、エフェソの信徒への手紙をローマ、西暦60～62年ごろに置き、使徒言行録のローマでの自宅軟禁と比較します。
4. 多くの研究者は、真正性に広く合意のあるパウロ書簡に見られる主題を広げ、発展させたパウロに近い協力者がエフェソの信徒への手紙を書いたと考えます。

一次資料

ローマの信徒への手紙からフィレモンへの手紙まで、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

使徒言行録7～28章、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

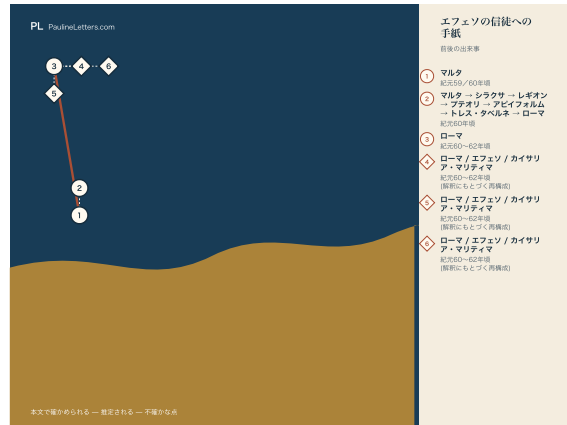
資料

Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997). — 第28章「エフェソの信徒への手紙」：「メッセージの全体的分析」
この箇所は、関連する研究上の見解を概観します。

Jerome Murphy-O'Connor, Paul: A Critical Life (Oxford University Press, 1996). — 第1章「年代枠組み」：「パウロ書簡からの証拠」と「使徒言行録からの証拠」
この箇所は、ここで結論を慎重に評価するための研究上の論点を示します。

聖書本文は含めず、参照箇所のみを記載しています。

<https://paulineletters.com/ja/explore/ephesians>



考える別の読み方

多くの研究者は、真正性に広く合意のあるパウロ書簡に見られる主題を広げ、発展させたパウロに近い協力者がエフェソの信徒への手紙を書いたと考えます。

初期の写本の一部にエフェソを示す語がないことは、エフェソの信徒への手紙を複数の共同体のための回覧書簡と読む見方を支えます。

話し合いのための問い

なぜこの手紙は書かれたのですか。

確かなことは何で、どこで慎重な読み方が分かりますか。